NPO法人神奈川県自然保護協会　　設立１９６５年１０月１日

ニュースレター

No.79

2014年12月15日

目　　次

ページ

お知らせ・行事案内
さがみ自然フォーラム
シンポジウム　箱根の自然　何が今問題か（仮）　---------- 1
行事記録
湘南海岸の自然　---------- 2
えこまるマーケット
奇跡の海相模湾　三崎東大臨海実験所で磯の観察と講話
県内自然保護ニュース
厚木市（仮）健康こどもの森建設計画　秦野・霊園問題　---------- 6
丹沢大山自然再生活動報告会　コケ観察ブック発行（平塚市博物館）　----------
---------- 7
その他　自然保護ニュース　環境省パブコメ

神奈川県自然保護協会　行事案内

生物多様性あつぎ戦略推進事業

第14回 さがみ自然フォーラム

共催：神奈川県自然保護協会　厚木市　後援：神奈川県　（公財）かながわトラストみどり財団

2014年　12月　21日（日）　厚木市文化会館　集会室　＆　小ホール

第１部　11時～12時　（休憩）　13時～14時　（　４階　集会室　）

県内で活動する自然保護、生物多様性保全活動をしている各種主体によるポスター発表による交流会

年末に、今年の活動をふり返り情報交換をしましょう

第２部　14時30分～16時30分　（　小ホール　）

講演　「環境ボランティア時代のまちづくり」　講師　東京農業大学名誉教授・元学長　進士五十八氏

シンポジウム

箱根の自然　何が今問題か　（仮題）　２０１５年2月２１日（土）

会場　神奈川県立生命の星･地球博物館

箱根は１９３６年に国立公園に指定され、一昨年には日本ジオパークにも認定された神奈川県を代表する自然地域です。神奈川県では丹沢山地が深山的で山の自然の質が高いと思われがちですが、ブナ林はもちろん国指定天然記念物である仙石原湿原があったり、芦ノ湖という自然の湖、大涌谷・早雲山の硫気孔の影響を受けた特異な植物群落など、バリエーションの多さではさすがです。

この箱根は，古くから観光地として開発が進み、丹沢に比べて依存して生活する人の数はずっと多く、観光客も含めて自然へのインパクトには大きなものがあります。また最近では周辺地域からシカが分布を拡大しつつあり植生への影響が心配です。箱根と丹沢の自然を比べたとき、箱根の方がより管理が必要と言えるでしょう。

丹沢大山では幾度かの総合調査に基づいて現在「丹沢大山自然再生事業」が展開されています。ところが、箱根ではかつて一度も総合的な調査は行われていません。

神奈川県自然保護協会はここ数年、箱根の総合調査を行い、持続的な自然管理のため、しかるべき処方箋を書くべきと提案をしています。

特に今、大型哺乳動物であるシカを、自然の質を高める構成要因として歓迎すべきであるかも知れないのに、このままでは丹沢でのように悪者にしてしまうことになる危険があります。

箱根の自然に関わる、研究者や。行政関係者、利用者が一堂に会し問題点を明らかにし、将来に向けた処方箋を作る気運を盛り上げる機会にしたいと思います。

行事報告

湘南海岸の自然　２０１４年 9月１４日（日）

＝　砂浜の自然　防災　将来へのビジョン　＝

主催　NPO 法人神奈川県自然保護協会　　共催　湘南緑の連絡協議会

コース

小田急江ノ島線鵠沼海岸駅集合　→　引地川河口部から鵠沼海浜公園見学（津波対策を考える）　→　辻堂海浜公園や辻堂浄化センター（辻堂南部公園）見学　→　神奈川県藤沢土木事務所汐見台庁舎（休憩･昼食）　所内ビオトープ及び圃場見学　その後神奈川県の海岸林管理の考え方や津波対策についての講話

海抜高度を示す表示

津波時避難経路を示す掲示

砂浜植物　コウボウムギ

砂浜植物　ハマボウフウ

砂浜植物　ハマニガナ

砂浜植物　ハマゴウ

補植用クロマツ圃場

松林の景観を保持するため広葉樹の高さを抑える

説明を聞く参加者

東日本大震災以来、海岸の津波対策については深刻な問題として浮かび上がってきました。また、相模湾では海岸浸食対策も大きな課題です。

一方、海岸には海岸の生態系があり、砂浜から松林にかけての植生は独特の景観を作っており、希少種も存在します。これらを保全することは防災対策になることもあり、また矛盾することもあり得ます。レクリエーションも含めて海岸利用のあり方を考え、将来のビジョンを市民と共有することは大事なことです。施策に関わる県担当者から説明を受けたり、現地を見て考える一日となりました。

湘南海岸砂防林ついて

（概要）

延長は　11.4 ㎞　85 万 2 千㎡

強風時は　飛砂　海水の飛沫にさらされること

昔は砂丘が広がっていたこと

（砂防林の役割）

10m の高さの森は風下２～３百 m 程度の風速を弱める。

（歴史）

昭和 3 年に造林を始める。昭和天皇即位記念事業

戦争中に荒廃し昭和 21 年から整備再開

昭和 36 年　台風や異常乾燥により荒廃

昭和 40 年以降生態学的手法も採り入れた施業に

（現在の砂防林）

海岸で飛砂を押さえる砂防柵　　飛砂を防止するネット

クロマツの「個性」長所と短所

長所	短所
日本の木である	切り株・切り口から芽吹かない
大木になる	
乾燥、塩害に強い	うす暗いところでは育たない
成長が速い	（マツの下にはマツが生えない）
白砂青松の景観	深刻な被害を及ぼす害虫がいる
苗木の調達が用意（安い）	（同じ木だけの林は病虫害に弱い）
育てるノウハウが豊富	落ち葉がなかなか分解しない
	（養分にならない）

クロマツの短所を補うために多様な広葉樹を植栽

昭和 58 年　横浜国大　宮脇昭教授の指導によりスダジイ、タブ、ウバメガシなどの植樹を行う。

侵食対策事業について

茅ヶ崎海岸は、主として相模川からの流出土砂が堆積して形成されている。

（管理について）

常緑皇輿婦樹は飛砂に弱く、 平成 23 年 9 月の台風によりタブノキは地上部の多くが枯れてしまった。クロマツは問題ない。

病虫害について　クロマツに寄生する虫を駆除するために薬剤散布や枯松の伐倒、樹幹注入を行う。

補植用のマツの種は砂防林から採取している。

地域の遺伝的特質を失わないよう、抵抗性クロマツは使わない。

（今後の課題）

１）土壌の富栄養化　混交林化により富栄養となり、クロマツへの影響はないか。

２）生物多様性の問題

貧栄養なクロマツ林特有な生物の減少。

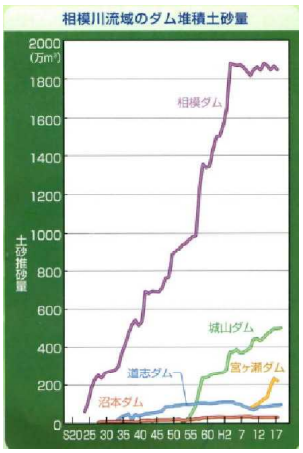
海浜植物の減少。

外来生物の増加。（園芸植物を植える人も・・・）

これが相模川にダムが形成されたこと、昭和 30 年代に大規模な砂利採取が行われたことにより、流出土砂が激減。

更に漁港や海岸構造物により漂砂が阻害され局所的に海岸浸食が進んだ。

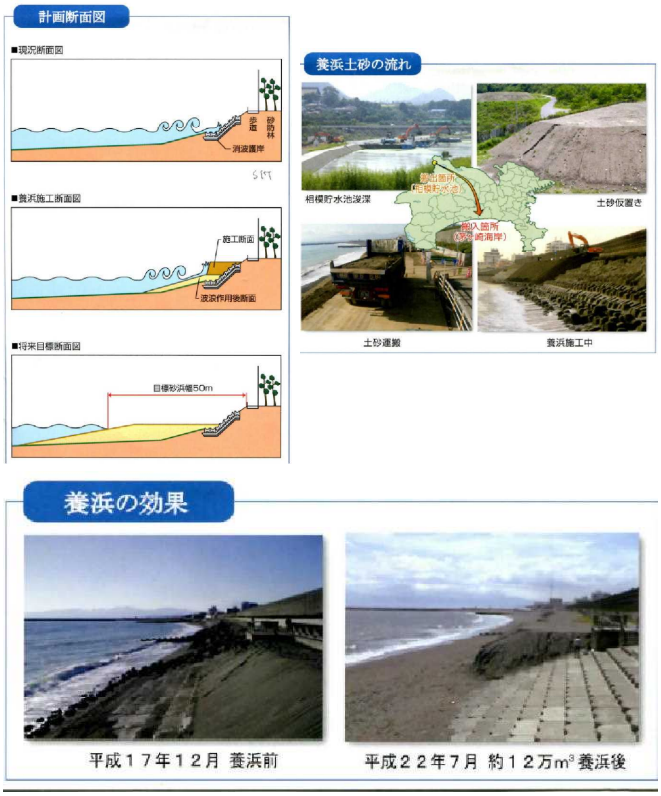
漁港や、海岸構築物は生活上必要な施設であるため、いろいろな取り組みがされている。



相模川流砂系

茅ヶ崎海岸中海岸地区の養浜事業

県藤沢土木事務所　パンフレットより



えこまるマーケット

10 月 26 日　厚木中央公園で行われた「市民朝市 40 周年」「厚木市制 60 周年」カウントダウンイベントを兼ねたえこまるマーケットに生物多様性あつぎ戦略の一環として、「LOOK!! あつぎの自然」というブースを出し外来生物の啓発活動を行いました。

ブースでは、外来植物の展示と共に、秋の付着性草の実の仕組みを顕微鏡で見たり、アメリカザリガニに触って観察したり、ここを出発して公園内の自然観察をするツアーをしたりしました。一番人気だったのは朝市出店者と連携して地元有機野菜の賞品が当たる、外来種をターゲットにしてオオオナモミの実で的当をするゲームでした。

ザリガニ　触れるかな。

オオオナモミ的当て

厚木市記者発表から

イベントは、40 周年を迎える「市民朝市」と、動物愛護・地球温暖化対策・ごみの減量や資源化・生物多様性・森林保全などの大切さを分かりやすく伝えようと、ことし初めて開催。市と厚木愛甲獣医師会、市民朝市推進委員会出店者組合が主催しました。名称は「エコロジー」と「アニマル」をもじり「えこまる」、市民朝市から「マーケット」を組み合わせました。

2 歳の娘と来場し、外来種の生物や植物が描かれた布の的に「ひっつき虫」として知られるオオオナモミを投げてくっつけるゲームに参加していた清水研一さん（54・恩名在住）は「子どもをミニＳＬで遊ばせようと来てみたが、普段触れる機会がないザリガニや外来の植物などに触れるコーナーもあって良かった」と話していました。

厚木地域 SNS「マイタウンクラブ」から

4. puu さん | 2014 年 10 月 28 日 12:29

「LOOK!!あつぎの自然」のコーナーがおもしろかった。

アメリカザリガニに直接触れたり、オオオナモミの的あてゲームは子どもたちに人気がありました。

厚木が外来生物の侵略にさらされている現状が紹介されていました。

5. ４０からこさん | 2014 年 10 月 28 日 19:46

puu さん

マグロ売り場の正面が、「LOOK!!あつぎの自然」だったでしょうか？

そういう企画があった事を、後から市のＨＰで知りました。

マグロに見とれていて気が付きませんでした。

残念！　見たかったです。

環境や農業、動物愛護などに関心を深めてもらおうと市は 26 日、環境農政フェア「えこまるマーケット」を開催しました。会場となった厚木中央公園（寿町 3-2-1）には家族連れなど約 1 万人が訪れ、各エリアで展示や販売、体験を楽しみました。

イベントは、40 周年を迎える「市民朝市」と、動物愛護・地球温暖化対策・ごみの減量や資源化・生物多様性・森林保全などの大切さを分かりやすく伝えようと、ことし初めて開催。市と厚木愛甲獣医師会、市民朝市推進委員会出店者組合が主催しました。名称は「エコロジー」と「アニマル」をもじり「えこまる」、市民朝市から「マーケット」を組み合わせました。

2 歳の娘と来場し、外来種の生物や植物が描かれた布の的に「ひっつき虫」として知られるオオオナモミを投げてくっつけるゲームに参加していた清水研一さん（54・恩名在住）は「子どもをミニＳＬで遊ばせようと来てみたが、普段触れる機会がないザリガニや外来の植物などに触れるコーナーもあって良かった」と話していました。

奇跡の海・相模湾
三崎東大臨海実験所で磯の観察と講話

11 月 25 日、当日は生憎の雨模様の天気で、磯の観察はできませんでしたが、午前中実験所長赤坂先生の講話があり、午後は実験所学芸員幸塚さんや、ボランティア解説員さんたちの指導の下、ドレッジ採集でえられた資料を双眼実体顕微鏡で観察しました。

普段目にすることのない、ミクロの世界に触れ、更に資料室で貴重な展示物を見、参加者は大いに満足しました。

所長　赤坂甲治先生講話

年間延べ 2 万 5 千人の研究者学生が利用している。

東京大学がここに研究所を設立したわけ。

ここの海は特別の海で、環境が良いので生物種の数は世界一。

太陽エネルギー、太平洋からの海流、東京湾からの栄養塩類に富んだ海水があり、生物の生息に適している。

地形が複雑（岩場、砂場、干潟）、地質も複雑で環境の変化に富むので種類数が多い。採集されものは 900 種を超える。海も急に深くなって深海生物が採れる。深海生物には生きている化石と言われるものが多く進化の研究に役立つ。

深海には、光が届かないが動物プランクトンの死骸がマリンスノーとなって有機物を供給するので深海の生物は生きられる。

三浦の海が世界一と気づいたのは明治時代の欧米の研究者だった。

アメリカから来たのはエドワード・モース（大森貝塚発見者として有名）、ドイツから来たのはヒルゲンドルフ。

モースが日本に来たのはお雇い外国人としてではなかった。ダーウインの影響を受け進化上重要な生物（シャミセンガイ）を求めてきた。その情報はペリーの艦隊からもたらされていた。

モースが教鞭を執ったのは半年ぐらいだった。

もうひとり、デーデルラインが江の島で次々と深海性の新種を発表した。これは土産物屋で見つけたもので、江の島の土産物屋で売られていたのは、三浦の漁師が採ったものだった。

産地を知ったデーデルラインは東京大学に三崎に実験所を作ることを進言した。（現在の場所に移ったのはしばらくしてから））

もうひとりのドイツからの学者ヒルゲンドルフも江の島の土産物屋から発見して国に帰ってから次々と新種を発表した。その中に中生代からの貝オキナエビスがあった。

これを大英博物館が読んで東大に採集を依頼した。

２～３百ｍの深さにいる貝を手こぎの舟で行き、どうして採るのか。良くい場所を知っている人がいて、これを採り懸賞金をもらったら家が建ったので喜んだ。青木熊吉という人で、海から見える山の重なりでポイントを特定する漁師が昔から使う山立てという方法に熟練していた。

もう一つ重要な話は、ここに 1899 年の 8 月に御木本幸吉さんが来て、箕作佳吉指導の下、真珠養殖技術の開発をした。

ここでの生物研究の意味。種に関する知識を集める事だけではない。理学部なので真理の探究が目的。哲学的なものもある。

アリストテレスは哲学者で生物学者でもあった。（ウニの殻の口の部分をアリストテレスの提灯という。）

動物は姿形は違っても生きている仕組みは全く同じで、分かったことは人間にも応用できる。命の仕組みが壊れると病気になる。ノーベル生理学賞に貢献した生物研究がある。

クラゲ　オワンクラゲは最近の話題。クラゲに私たちの遺伝子は働くから。

イカ　神経が太いので、情報を伝える仕組みが捉えやすい。神経を情報が伝わる仕組みの解明。

ヒトデ　赤ちゃんは透明で身体の中の仕組みが良く分かる。異物が入ったときに細胞がどのような反応をするのか分かる。免疫の仕組み。

ここには船もあり、外国から来た研究者に協力したり、宿泊もでき食事も出せる。

動物の分類の研究だけでなく、海藻の研究、陸域には自然林がありフィールドを提供している。また生産技術研究所の海の中をハイビジョンカメラで見るようなロボットの研究もしている。

海岸には岩場があり地層の研究もできる。化石も出る。

初等中等教育について。2007 年に海洋基本法が制定され、この中に学校教育で海の学習を推進しようと書いてある。海洋教育を三浦市と連携してすべての学校で行っている。三浦市が真珠養殖の発祥地であったことから、これを復活させる。これは分野横断的海洋教育教材になる。

小網代の森が海の自然を育み、そこにアコヤガイが生息する。（環境と養殖の勉強）。真珠ができると品質管理〔化学〕、製品化（工業）、販売〔商業〕更に観光に結びつく。

東京大学、三浦市、三浦漁協、京急グループ、海洋科学高校が協働して三浦真珠に取り組んでいる。

神奈川県内自然保護ニュース

（このページに掲載する情報をお寄せください。）

厚木市　仮称健康こどもの森建設計画

厚木市の北部にある「荻野運動公園」に接して、現在「（仮称）健康こどもの森」の建設が進められている。

この場所には、谷戸田跡があり湿地系の生物生息地として、本協会で現在策定中の生物多様性ホットスポット候補地のひとつにもなっている。

建設が具体化するまで余り情報が無かったため、環境に対する影響の程度が分からなかった。

具体化するようになって、いろいろ問題があることが判明し、当協会も含めてた６団体により厚木市長宛要望書を出しました。（ニュースレター№７３　2013.10.7 発行）

その結果、学識経験者・地元活動団体などからなるワーキンググループが設置されることになり、施工計画の事前検討、工事中の配慮状況検討などすることになった。

工事内容では、既に基幹的な部分で計画が決まっていた、主要園路が尾根地形を大きく切り開く事については止めることができなかった。

切り開かれた赤土（関東ローム）の大きな露頭は明瞭な形で１０万余年前の箱根火砕流東京軽石層が現れ、皮肉にも地質学習の為に格好の教材を提供することになった。

できてしまったものについて、露頭を被覆するのではなく、地質学習・研究に使えるような形での保存を希望している。

現在、工事範囲内の希少植物生息地点の保全。自然へのインパクトが大きいと思われる大滑り台２基の内、１基の建設を中止にするなど。また、工事区域外一般利用区域内の草刈りにあたり、希少植物の所在を明らかにして保護するなどの効果を発揮している。

しかし、最近になって工事区域内では、多くのカヤネズミの生息が発見されたり、他にも生息している可能性のある RDB 種の情報があり、今後も十分な見守りが必要な状況だ。

秦野・霊園問題:「１０日に着工」　市民団体が標識確認　／神奈川

毎日新聞　2014 年 11 月 11 日　地方版

秦野市渋沢の八国見山（３１９メートル）南面区域での大規模霊園開発で、「１０日着工」が確認された。事業者の公益財団法人「相模メモリアルパーク」（愛川町）が、開発予定地の近くに設置した都市計画法による開発許可、林地開発行為許可や施工業者などを記した標識から、「渋沢丘陵を考える会」（日置乃武子代表）などの自然保護グループのメンバーが確認した。霊園開発の工期は１０日から２０１８年５月３１日までとされている。

また、八国見山南面区域の尾根を切り土して発生する残土が、中井町松本椎ノ尾地区の一時保管場所（広さ約９５４２平方メートル）に埋め立てられることも新たに分かった。標識には工期は１０日から１７年２月２８日までと掲示されている。

大規模霊園開発を巡って、これまでに自然保護グループが数々の違法行為を指摘してきた。特に霊園（広さ約１９・９ヘクタール）の規模が、別の場所に設けられる参拝者用駐車場の面積を加えると、県土地利用調整条例で定める民間墓地面積の上限２０ヘクタールを超えるため、自然保護グループは「駐車場も霊園と一体になった同一の開発行為であり、明らかに県条例違反」と訴えてきた。

着工について自然保護グループは「県西部に残された貴重な自然の大規模破壊は、自然環境と生物多様性の保全を根底から否定する暴挙。数多くの違法行為がある中で、開発の強行は到底、許されない」としている。【高橋和夫】

１２月２１日　さがみ自然フォーラムには「渋沢丘陵を考える会」がポスター発表で参加します。

ポスターセッションで、応援しましょう。

２０１４年度　丹沢大山自然再生活動報告会

丹沢大山自然再生活動の成果と課題を考える　～森林・登山・山里再生～

2014.12.13　神奈川県立生命の星地球博物館

羽山委員長　開会あいさつより

10 年前に総合調査が始まり、500 名以上の県民･専門家が参加した。病んでいる丹沢の現状を診断し処方箋（政策提言）を書いた。終わったときにこの活動を継続的に行おうと自治体も参加していただいて再生委員会が設立され 8 年目になる。

これまでの成果は。シカの管理と森林の管理の問題について徐々にではあるが再生の兆しが見え始めた。

全国的にはシカ問題は大きくついに制御不能の状況になり、鳥獣保護法が大幅に改正されることになったが、丹沢では全国に先んじて成果を上げている。

水源税による資金を得たことが大きかったが、水源保全再生計画の陰に丹沢再生の名が隠れてしまったきらいがある。

丹沢の調査は過去 3 回行われ内 2 回は市民参加だった。ここで作られたネットワークは神奈川の貴重な財産だったが、ここ 10 年失われつつあるのは残念。もう一度構築したい。市民が声を上げて参加する体制をつくって行こうと言うことが再生委員会に求められている。

再生委員会は大きな組織になって、年に 1 回の会議体として維持されているのが実体。もう一度、運動体としての機能を持つべきだと思う。

今の課題は何か、話し合う中から抽出して来年以降の活動に反映させる、政策提言ができる報告会にした。

平塚市博物館

コケ観察ブック発行

身近な生物のコケに注目してもらおうと、小冊子「コケ観察ブック」を刊行した。図鑑や顕微鏡などがなくても身近にあるコケの種類を判別できるよう、種類ごとの葉の形や大きさなどの特徴を図解した。虫眼鏡をもとにした「ルーペさん」、光学顕微鏡がモチーフの「ケンビさん」の二つのキャラクターも登場し、分かりやすく説明してくれる。

コケは多種多様。平塚市博物館では「コケは難しい分野とされるが、この冊子を活用して身近なコケを知って楽しんでほしい」と話している。Ａ５判２６ページ。１部５０円。同博物館で販売しているほか、郵送も可能。問い合わせは同博物館（０４６３・３３・５１１１）。毎日新聞記事より

目次

コケを探そう「街の中の公園」（文化公園）…4
コケを観察するときのポイントその1　茎と葉と…9
コケを観察するときのポイントその2　3つのグループ…10
コケを観察するときのポイントその3　葉っぱの形…11
コケを探して「街の中の公園」（平塚八幡宮～八幡山公園）…12
コケを観察するときのポイントその4　乾いたとき、湿ったとき…13
コケを探して「木の多い山道」（高麗山北側）…14
コケを観察するときのポイントその5　いろいろな形のさく…15
コケを探して「林の中」（湘南平こどもの森）…16
コケを観察するときのポイントその6　ほうコケは茎の伸びる方向にも注目…17
コケを探して「街の中の広い公園」（総合公園）…18
コケを観察するときのポイントその7　茎のあるタイ類は、とても小さい…19
コケを探して「里山近くの林」（琵琶青少年の家）…20
コケを観察するときのポイントその8　男の子と女の子…21
コケを観察するときのポイントその9　無性芽…21
コケを探して「街の中の公園」（文化公園）…22
ミニコラム　コツボゴケを見よう…23
おわりに…25
この冊子に登場した場所…25
参考文献…26

表紙と目次

その他　自然保護ニュース

環境省　募集中のパブリックコメント　http://www.env.go.jp/info/iken/index.html#82777

２０１５年１月１１日締切

外来種被害防止行動計画（案）　http://www.env.go.jp/info/iken/index.html#82777

（背景）　平成 22 年 10 月に名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議において、2020 年までに侵略的外来種とその定着経路を特定し、優先度の高い種を制御・根絶すること等を掲げた愛知目標が採択されました。

平成 24 年９月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」においては、「愛知目標を踏まえ防除の優先度の考え方を整理し、計画的な防除等を推進するとともに、各主体における外来種対策に関する行動や地域レベルでの自主的な取組を促すための行動計画を策定すること」を国別目標のひとつとしました。

これを受けて、環境省、農林水産省及び国土交通省では、平成 24 年度から学識経験者などから構成される会議を設置し、「外来種被害防止行動計画」（以下、「行動計画」という）の検討を進めてきました。

行動計画では、さまざまな社会活動（生活、経済等）の中に、外来種問題を取り組むべき主要な課題として組み込んでいく（主流化する）ための基本的な考え方、国、地方自治体、民間団体、企業、研究者、国民等の多様な主体が外来種対策に取り組むに当たっての行動指針、それらを踏まえた国の具体的な行動を示すこととしています。これにより、我が国の外来種対策を総合的かつ効果的に推進し、我が国の豊かな生物多様性の保全及び、持続的な利用を目指すことを目的としています。

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（案）　http://www.env.go.jp/info/iken/index.html#82776

（背景）　平成 22 年 10 月に名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議において、2020 年までに侵略的外来種とその定着経路を特定し、優先度の高い種を制御・根絶すること等を掲げた愛知目標が採択されました。

平成 24 年９月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」においては、愛知目標を踏まえ、外来生物法に基づく特定外来生物のみならず、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種についてのリストを作成することを国別目標のひとつとしました。

これを受けて、環境省と農林水産省は、平成 24 年度から有識者からなる会議を設置し、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」の作成を進めてきました。

このリストは愛知目標の達成に資するとともに、外来種

についての国民の関心と理解を高め、様々な主体に適切な行動を呼びかけることで、外来種対策の進展を図ることを目的としています。

注　リスト案に含まれている種の県内生息の状況
（情報の無いものは抜いてあります）
選定理由；HP には記載してあります。
＊印　旧要注意外来生物

動　物

総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）

（緊急対策外来種）

哺乳類
アライグマ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
クリハラリス（タイワンリス）（特定外来）　分布拡大期～まん延期
クマネズミ＊　分布拡大期～まん延期
ノネコ（イエネコの野生化したもの）　分布拡大期～まん延期

鳥類
カナダガン（特定外来）　分布拡大期～まん延期

爬虫類
カミツキガメ　（特定外来）　分布拡大期～まん延期

魚類
ブルーギル、コクチバス、オオクチバス（特定外来）　分布拡大期～まん延期

昆虫類
アルゼンチンアリ（特定外来）　分布拡大期～まん延期

陸生節足動物
ハイイロゴケグモ，セアカゴケグモ（特定外来）　分布拡大期～まん延期

その他無脊椎動物
アメリカザリガニ＊　分布拡大期～まん延期

（重点対策外来種）

哺乳類
ハクビシン、ドブネズミ、ハツカネズミ、ノイヌ（イヌの野生化したもの）　分布拡大期～まん延期

鳥類
ガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウ（いずれも特定外来）　分布拡大期～まん延期

爬虫類
アカミミガメ＊、クサガメ　分布拡大期～まん延期

両生類
ウシガガエル（特定外来）　分布拡大期～まん延期

魚類
タイリクバラタナゴ＊　分布拡大期～まん延期
カダヤシ（特定外来）　分布拡大期～まん延期

昆虫類
アカボシゴマダラ大陸亜種　分布拡大期～まん延期

（その他の総合対策外来種）

魚類
ソウギョ＊　定着初期／限定分布
ペヘレイ　定着初期／限定分布

その他無脊椎動物
ホンビノスガイ　定着初期／分布限定
ムラサキイガイ＊　ミドリイガイ＊　タイワンシジミ＊　シマメノウフネガイ　コモチカワツボ　カニヤドリカンザシ＊　カサネカンザシ＊　タテジマフジツボ＊　アメリカフジツボ　ヨーロッパフジツボ フロリダマミズヨコエビ　チチュウカイミドリガニ＊
以上分布拡大期～まん延期

適切な管理が必要な産業上重要な外来種

レイクトラウト　定着初期／限定分布
ニジマス＊、ブラウントラウト　分布拡大期～まん延期
セイヨウオオマルハナバチ（特定外来）　定着初期／限定分布

植　物

総合的に対策が必要な外来種

（緊急対策外来種）

外来アゾラ類　（特定外来　一部）分布拡大期～まん延期
ナガエツルノゲイトウ（特定外来）分布拡大期～まん延期
アレチウリ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
オオフサモ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
オオカワジシャ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
オオキンケイソウ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
オオハンゴンソウ（特定外来）　分布拡大期～まん延期
ボタンウキクサ（特定外来）　分布拡大期～まん延期

（重点対策外来種）（多種にわたるので代表的なもの例示）
オランダガラシ（クレソン）＊　イタチハギ＊　コマツヨイグサ＊　トウネズミモチ＊　外来ノアサガオ類　オオブタクサ＊　セイタカアワダチソウ＊　外来性タンポポ種群＊　オオカナダモ＊　ホテイアオイ＊　キショウブ＊　ノハカタカラクサ＊　シナダレスズメガヤ＊　メリケンガヤツリ＊　以上いずれも分布拡大期～まん延期

（その他の総合対策外来種）

（多種にわたるので代表的なもの例示）
ヒメツルソバ　ムシトリナデシコ　ヒイラギナンテン　セイヨウカラシナ　ピラカンサ類　エニシダ　アメリカネナシカズラ＊　アメリカセンダングサ＊　ハルシャギク　ヒメジョオン＊　マルバフジバカマ　オオオナモミ＊　シンテッポウユリ
以上いずれも分布拡大期～まん延期

適切な管理が必要な産業上重要な外来種

キウイフルーツ　ビワ　ハリエンジュ＊　コヌカグサ　カモガヤ＊　オニウシノケグサ＊　ドクムギ＊　モウソウチクなどの竹類　ナギナタガヤ
以上いずれも分布拡大期～まん延期

【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

（その他の総合対策外来種）

九州北部以北の森林内などのシュロ類
分布拡大期～まん延期

ニュースレター　79号

2014年12月15日発行

特定非営利活動法人
神奈川県自然保護協会

〒243-0816　厚木市　林　5－15－10　青砥方
TEL&FAX　046-222-2356
http://www.eco-kana.org
Eメール：nacs-kana-office01@eco-kana.org

郵便振替口座　00230-0-112653　銀行からの振り込みは　ゆうちょ銀行(9900) 029（ゼロニキュウ）店　当座 0112653